

第61回 通常総会・会長講演・表彰式 S1会場 タッカーホール講堂

日時：3月27日(木) 13:40-17:45
会場：立教大学池袋キャンパス タッカーホール (S1会場)
13:40-14:10 会長講演「知の連携によるイノベーションの推進を」
平成20、21年度会長 中西宏幸
14:20-15:20 第61回通常総会
15:30-16:30 表彰式
16:45-17:45 コンサート (Orchestra Chimica)
創立125周年を機に本会会員により結成された化学オーケストラによる演奏。参加費無料。

懇親会 第一食堂

日時：3月27日(木) 18:00-20:00
会場：第一食堂 (立教大学池袋キャンパス内)
参加費：一般4,000円、学生2,000円

インターネット室 7号館 7201教室・7202教室

立教大学のご協力により、7号館7201教室・7202教室にてLANサービス(有線)の提供致します。詳細は春季年会ウェブサイトにてご確認ください。

就職相談会 立教池袋中学校・高等学校

主催：(社)日本化学会産学交流委員会・第88春季年会実行委員会
協力：(株)化学工業日報社
日時：3月27日(木) 13:00-17:00
3月28日(金) 10:00-18:00
3月29日(土) 10:00-17:00
会場：立教池袋中学校・高等学校
参加費：無料
申込方法：直接会場へお越し下さい。
参加企業：(2月13日現在)
旭化成グループ (株)ADEKA エスケー化研(株) (株)カネカ
キャノンファインテック(株) 共栄社化学(株) コバレントマテ
リアル(株) 住友化学(株) ダイセル化学工業(株) 武田薬品工
業(株) 日華化学(株) 富士フイルム(株) 三井化学(株) 三菱
化学(株)

付設展示会 立教池袋中学校・高等学校

主催：(社)日本化学会
協力：(株)化学工業日報社
後援：日本科学機器団体連合会・(社)日本分析機器工業会・日本
薬科機器協会・(社)日本誌薬協会
日時：3月27日(木)～29日(土) 10:00-17:00
会場：立教池袋中学校・高等学校
参加費：無料
出展社：(2月13日現在)
RRSC Publishing (株)IDX (株)アイントテスラ 朝日分光(株)
アドバンスソフト(株) (株)イトーキ インフォコム(株) 米国
法人Wavefunction, Inc. HPCシステムズ(株) (株)エヌ・ティー・

エス NPG ネイチャーアジア・パシフィック (株)エル・エム・エ
ス エルゼビア・ジャパン(株)洋書事業部 大阪府立大学 オ
ーションフォトニクス(株) オックスフォード大学出版局 (株)オ
プティマ オプトシリウス(株) (独)科学技術振興機構 電子ジ
ャーナル課 (株)化学工業日報社 (社)化学情報協会 (株)化学
同人 関東化学(株) (有)桐山製作所 コスモ・バイオ(株) コ
バレントマテリアル(株) コンフレックス(株) サイバネットシ
ステム(株) シグマアルドリッチジャパン(株) 四国計測工業
(株) 柴田科学(株) Symyx Technologies シュプリンガー・ジャ
パン(株) 純正化学(株) GEヘルスケアバイオサイエンス(株)
(株)スギヤマゲン (独)製品評価技術基盤機構 化学物質管理セ
ンター (株)ゼネラルサイエンスコーポレーション センゲー
ラーニング(株) (株)セントラル科学貿易 ダイセル化学工業
(株) WDB(株) (株)デジタルデータマネジメント (株)東京
化学同人 東京化成工業(株) 東京書籍(株) 東京理化学器械(株)
トムソンサイエンティフィック ナカライテスク(株) 日機装
(株) (社)日本化学会 日本カンタム・デザイン(株) 日本シ
ベルヘグナー(株) 日本電子(株) 日本分光(株) 日本分析工業
(株) (株)バキューブランドサイエンティフィック ジャパン
ハック・ウルトラ・アナリティクス・ジャパン(株) 浜松ホトニク
ス(株) (株)ピアノン・エデュケーション ビー・エー・エス(株)
(株)日立ハイテクノロジーズ ヒドラス化学(株) (株)ヒューリ
ンクス 富士シリシア化学(株) 富士通(株) (株)藤原製作所
(株)フレックス マイクロ化学技研(株) 丸善(株)卸営業部 丸
善(株)出版事業部 (株)美和製作所 武蔵エンジニアリング(株)
メルク(株) 山善(株) (株)UNICO エラボジャパン(株) (株)
ライトストーン (株)リガク 立教大学 (株)菱化システム
LECO ジャパン(株) (株)レッチェ RefWorks ロックゲート
(株) (株)ワイエムシー ワイリー・ジャパン 和光純薬工業(株)
渡辺化学工業(株)

◇化学史展示コーナー
◇無料コーヒーコーナー
◇抽選コーナー

第2次先端ウォッチング イブニングセッション 精密巨大分子の化学 S7会場 5号館 5222号室

日時：3月28日(金) 15:00-18:00
会場：立教大学池袋キャンパス 5号館 5222号室

「精密巨大分子」とは以下の特徴を持つ分子数数千から数万の巨
大分子である：1) デザインした低分子化合物を化学結合によっ
て連結した分子、2) 精密に化学合成された純粋な物質、3) 逐次
合成(ビルドアップ合成)されている分子。精密巨大分子には低
分子とは桁違いの多様性があることに加え、分子内に極めて回転
の遅い結合と速い結合や、柔軟な部分と剛直な部分が不均一に存
在し、また、静電相互作用、水素結合、疎水性相互作用、p-p 相
互作用あるいは van der Waals 力といった非共有結合性相互作用が
格段に強い。それらが相まって低分子量の化合物とは本質的に異
なる新たな機能を発現することができ、その活用は社会におおき
なインパクトを与えると期待される。

今回の先端ウォッチングでは合成有機化合物、天然有機化合物
および有機金属錯体を対象とした「精密巨大分子」研究の最前線
と今後の展望を紹介する。

プログラム
15:00-15:05 趣旨説明(東北大院薬) 山口雅彦
15:05-15:20 二重ラセン型分子の合成と機能(東北大院薬) 山口
雅彦
15:20-15:35 大型クラスター錯体のビルドアップ合成とその機能
(中央大理工) 石井洋一
15:35-15:50 有機・無機ハイブリッド型分子の新機能(阪大院基
礎工) 真島和志
16:55-16:10 自己組織化を利用した巨大分子合成(東工大院理工)
岩澤伸治
16:10-16:25 精密分子機械の合成と機能(東大院工) 金原 数
16:25-16:40 巨大分子の効率的分子変換(京大院理) 忍久保 洋
16:40-16:55 生体内のマイクロ環境に学ぶ巨大反応空間の精密設計
(東工大院理工) 後藤 敬
座長 山口雅彦(東北大院薬)
17:00-17:15 多官能性巨大分子のビルドアップ合成(東工大院理)

- 工) 大森 建
 17:15-17:30 天然物集積型分子の合成と機能 (東北院生命) 有本博一
 17:30-17:45 天然型精密巨大分子の合成と機能 (東大院薬) 井上将行
 17:45-18:00 質疑

参加費：無料。講演要旨代 1,000 円 (希望者に会場にて頒布：会場特価)

第 2 次先端ウォッチング イブニングセッション ナノ粒子のサイエンスとその将来

S8 会場 5 号館 5223 号室

日時：3 月 28 日 (金) 13:10-17:10
 会場：立教大学池袋キャンパス 5 号館 5223 号室

金属ナノ粒子などのナノ物質・ナノ材料は、近年、様々な領域で注目され幅広く利用されている。確かに、ナノ粒子やナノ構造体では、その表面の性質が強調されることや電子状態が変化すること、また、材料として加工した際の特異的な性質の発現など、化学の未来に大きなインパクトを与える新しい可能性が期待できる。しかし、多くの場合、必ずしもその特性が科学的に十分に理解されているわけではない。ナノ粒子やナノ構造体の特性を基礎から明らかにすることは、今後の材料科学、基礎科学の観点から重要であり、今日、その応用範囲が急速に広がっているだけにその波及効果も極めて大きい。

ここでは、ナノ粒子の新しい作製法、ナノ粒子が生み出す新しい機能、ナノ粒子の応用例 等に注目して、ナノ粒子が持つ新しいケミストリー・未知のサイエンスや特性を探り、新しい応用の道を明らかにしながら、その将来を展望する。

プログラム

- 13:10-13:20 趣旨説明 (熊本大工) 谷口 功
 ナノ粒子合成・ナノ構造体構築
 13:20-13:40 電気化学法によるナノ構造体の創製：ナノサイエンス・テクノロジーへのインパクト (東工大総理工) 大坂武男
 13:40-14:00 ナノカーボンからカーボンナノ材料へ：自己組織化と分子転写 (物材機構) 有賀克彦
 14:00-14:20 機能性金属ナノ粒子を用いる界面ナノ構造体の構築 (東大院理) 西原 寛
 14:20-14:30 総合討論
 ナノ粒子・構造体の機能発現
 14:30-14:50 ナノサイズ空間を有する蛋白質を利用した金属粒子作成 (名大院理) 渡辺芳人
 14:50-15:10 ナノ粒子のサイズ効果と触媒機能 (首都大都市環境) 春田正毅
 15:10-15:30 金属ナノ粒子材料の水素吸蔵機能 (九大院理) 北川 宏
 15:30-15:40 総合討論
 ナノ粒子/ナノ構造体とその応用
 15:50-16:10 電極表面におけるナノ構造体形成と分子レベル評価 (産総研) 吉本惣一郎
 16:10-16:30 金属ナノ粒子で拓くプラズモニクス (九大院理) 山田 淳
 16:30-16:50 ナノ粒子担持電極の燃料電池・センサ電極への応用 (熊本大工) 谷口 功
 16:50-17:00 総合討論
 17:00-17:10 まとめ (熊本大工) 谷口 功

参加費：無料。講演要旨代 1,000 円 (希望者に会場にて頒布：会場特価)

特別シンポジウム 『変容する大学：化学系大学院 教育改革と教育研究費を考える』

SC 会場 5 号館 5323 号室

主催：日本学術会議化学委員会・日本化学連合・日本化学会将来

構想委員会

日時：3 月 26 日 (水) 13:00-17:00
 会場：立教大学池袋キャンパス 5 号館 5323 号室
 教育再生会議報告を受けて大学院教育改革は多かれ少なかれ必至の状況であり、一方でそれに対する様々な危機・問題も指摘され、また、大学の運営費削減・教員数削減が依然として続いており、大学院・大学の将来戦略が混沌とし変容を余儀なくされている。さらに、博士課程進学者数も減少傾向が見られ人材育成の深刻さを啓示している。大学院教育に対する産業界の要請も明確に提示されている。このような状況下、日本学術会議化学委員会及び日本化学会ではそれぞれ独自に化学系大学院教育改革の現状とあり方及び大学の教育研究費の現状とあり方に対するアンケートを行い取り纏めを行った。これらを資料として化学系大学院教育改革と教育研究費を考える特別シンポジウムを開催する。会場参加者も巻き込んだ総合討論も行う。

プログラム

- 総合司会 岩澤康裕 (日本学術会議化学委員会委員長、日本化学会副会長、化学連合理事)
 開会挨拶 (13:00-13:05) (日本化学会平成 20 年度会長) 中西宏幸
 基調講演 (13:05-13:50) 『我が国の高等教育の誇るべきことと問題点：真の国際化にむけ国の努力を望む』 (日本科学技術振興財団会長) 有馬朗人
 講演 1 (13:50-14:20) 『化学系大学院教育改革の現状：日本学術会議化学委員会アンケート調査から』 (日本学術会議化学委員会大学院教育高度化分科会主査) 新海征治
 講演 2 (14:20-14:50) 『これでよいのか大学の教育研究費：日本化学会将来構想委員会アンケート調査から』 (日本化学会平成 19 年度筆頭副会長) 楠本正一
 講演 3 (14:50-15:20) 『我が国の総力あげて：産官学及び学協会の連携強化』 (日本化学連合会長) 岩村 秀
 総合討論 (15:30-16:55) 司会：楠本正一『大学院教育改革と教育研究費を考えると』 講師：(有馬朗人、楠本正一、岩村 秀、福住俊一)
 閉会挨拶 (16:55-17:00) (日本化学会副会長・化学連合副会長) 澤田嗣郎

参加費：無料。資料代 2,000 円 (予備。会場にて頒布)
 申込方法：1. 氏名、2. 所属・役職、3. 連絡先 (〒、住所、電話番号、FAX 番号、E-mail) を明記し、E-mail で下記宛お申し込み下さい。申込者には参加証を交付します。
 申込先：
 (社) 日本化学会 企画部 太田
 〒 101-8307 千代田区神田駿河台 1-5
 Tel (03) 3292-6163 Fax (03) 3292-6318
 E-mail: oota@chemistry.or.jp

「化学」と「プロセス」の新潮流 —ケミカルプロセッシングに おける化学の視点、 新たな展開を目指して— SA 会場 5 号館 5321 号室

主催：日本化学会産学交流委員会
 日時：3 月 27 日 (木) 13:00-17:00
 会場：立教大学池袋キャンパス 5 号館 5321 号室

有機化学と無機化学両分野において、この 30 年間における材料技術の発展は目覚しく、機能性素材として有機無機ハイブリッドも実用化された。“モノづくり”の観点からはプロセッシングが重視されるが、プロセッシングにおける化学の視点、とりわけ材料の組成、構造や組織をナノレベルで制御するケミカルプロセッシングについては、化学技術の領域であまり議論されていない。ゾルゲル法はケミカルプロセッシングとしてよく知られナノハイブリッド化手法にも展開されつつあるが、目標とする機能性素材を、設計された化学現象を伴う制御されたプロセッシングで製造するのがケミカルプロセッシングとするならば、反応容器としてのプロセッシングの概念を拡張し、従来の概念では製造できなかった機能性素材について新たな手段を提供する。新たなケミカルプロセッシングが開発されたならば、例えば機能の複合化設計でたびたび遭遇する二律背反を解決できる可能性がでてくる。

本企画では、プロセッシングにおける化学技術の役割を改めて見直すとともに、機能性素材を生み出す新しいケミカルプロセッシング

グの可能性について考察するために、最近注目を集めているプロセスのトピックスについて、化学技術の視点からご講演いただく。

プログラム

- 13:00-13:15 趣旨説明（産学交流委員会シンポジウム分科会委員・コニカミノルタビジネステクノロジーズ）倉地育夫
13:15-14:40 磁場を用いたプロセスにおける化学の視点
1) 磁場のプロセスの可能性と高分子の構造制御（仮）（京大院農）木村恒久
2) メソポーラスシリカ薄膜中のメソチャンネルの磁場配向（物材研）山内悠輔
14:50-15:30 二軸押出機によるポリマーナノコンポジットの製造（豊田中研）加藤 誠
15:30-16:10 エレクトロケミカルプロセス（仮）（福井大工）青木幸一
16:10-17:00 まとめと講演者によるパネルディスカッション
司会進行：倉地育夫

参加費：無料。講演要旨代 1,000 円（希望者に会場にて頒布）

申込方法：当日会場にて申込可能ですが、1. 氏名、2. 所属・役職、3. 連絡先（〒、住所、電話、FAX、E-mail）を明記し、事前にご記入にお申込み下さい。

申込先

（社）日本化学会 企画部 松原葉子
〒 101-8307 千代田区神田駿河台 1-5
Tel(03) 3292-6163 Fax(03) 3292-6318
E-mail: matsubara@chemistry.or.jp

問合せ先

（社）日本化学会 企画部 百武宏之
〒 101-8307 千代田区神田駿河台 1-5
Tel(03) 3292-6163 Fax(03) 3292-6318
E-mail: hyakutake@chemistry.or.jp

学から産へのシーズ発表会 — JST Innovation Bridge との連携 —

SB 会場 5 号館 5322 号室

主催：（社）日本化学会・（独）科学技術振興機構
日時：3月28日（金）09:00-12:00
会場：立教大学池袋キャンパス 5号館 5322号室

大学等のシーズを産業界の視点で見出すための産学の出合いの場として、標記発表会を第88春季年会にあわせて実施いたします。本企画は、ここでの出合いがその後、科学技術振興機構（JST）の研究費支援公募事業（最長1年、800万円程度/課題）への応募等、産学連携に発展することを期待しております。

ご自分の研究のアイデアや成果、技術シーズを産業への応用に発展させること期待される大学等の研究者からのユニークなテーマを募集し、広く産業界の方々にお聞きいただきます。

プログラム

募集内容およびプログラムの詳細は（社）日本化学会ウェブサイト（<http://www.csj.jp>）及び（独）科学技術振興機構のウェブサイト（<http://deainoba.jp>）に掲載いたします。

参加費：無料

申込方法：（独）科学技術振興機構のウェブサイトよりお申し込み下さい（<http://deainoba.jp/>）。

問合せ先

（独）科学技術振興機構 技術展開部イノベーション創出課
〒 102-8666 千代田区四番町 5-3
Tel(03) 5214-7995 Fax(03) 5214-8496
E-mail: innovdei@jst.go.jp
（社）日本化学会 企画部 百武宏之
〒 101-8307 千代田区神田駿河台 1-5
Tel(03) 3292-6163 Fax(03) 3292-6318
E-mail: hyakutake@chemistry.or.jp

資源・エネルギー問題の新展開 — 化学、“化学”技術はどのように 係れるのか —

S9 会場 5 号館 5224 号室

主催：日本化学会産学交流委員会
日時：3月28日（金）10:20-17:30
会場：立教大学池袋キャンパス 5号館 5224号室

社会の持続的発展を可能にするための方策として、再生可能な資源の利用効率最適化や代替法の開発、再生可能資源・エネルギーの利用促進を挙げることができる。これらは他の機会でも論じられてきた重要な課題であるが、本企画では急速に表面化し、もはや猶予が許されなくなってきた資源・エネルギー問題点を今一度整理した上で、稀少/枯渇金属資源およびバイオマスの有効利用と、最も生産量が多い化学品であるプラスチックを巡る話題に絞って、問題点に対する具体的な対応策についても取り上げる。プラスチックについては上流部分の前処理技術にスポットを当て、また直接ガス化を経る燃料等の合成についても取り上げる。バイオマスについては希少/枯渇金属資源については、最も効果的と考えられる代替技術の開発や資源リサイクルについて、また直接ガス化を経る燃料等の合成についても取り上げる。プラスチックについては、環境に優しいプラスチックの新しい概念や、資源リサイクルの現状などを紹介したい。

プログラム

- 10:20-10:30 主催者趣旨説明（産学交流委員会幹事・三井化学）中村武史
10:30-11:20 基調講演：資源・エネルギー問題をどう考えるか（仮）（地球環境産業技術研究機構）茅 陽一
[希少/枯渇金属資源への対応策]
11:20-12:00 「ものづくり」における「クリティカル・メタル」— 希少金属の代替・省資源—（三菱UFJリサーチ & コンサルティング）清水孝太郎
12:00-13:00 昼食休憩
13:00-13:40 ベース金属の戦略—亜鉛に替わる鉄鋼の表面処理技術—（東工大理工）水流 徹
13:40-14:10 湿式法による金属リサイクルプロセスの開発（産総研）田中幹也
[バイオマス利用技術]
14:10-14:50 濃硫酸法バイオマスエタノール製造技術（日揮）種田大介
15:00-15:40 リグノセルロース系バイオマスの糖化・発酵プロセスの新展開（仮）（神大院工）近藤昭彦
15:40-16:20 木質バイオマスからのエタノール及びBTLディーゼル燃料製造技術（産総研）坂西欣也
[プラスチックを巡る動き]
16:20-17:00 バイオプラスチック 日本と世界の動き（仮）（日本バイオプラスチック協会）猪股 勲
17:00-17:30 使用済みプラスチックのケミカルリサイクル（昭和電工）山本卓司

参加費：無料。講演要旨代 2,000 円（希望者に会場にて頒布）

申込方法：当日会場にて申込可能ですが、1. 氏名、2. 所属・役職、3. 連絡先（〒、住所、電話、FAX、E-mail）を明記し、事前にご記入にお申込み下さい。

申込先

（社）日本化学会 企画部 松原葉子
〒 101-8307 千代田区神田駿河台 1-5
Tel(03) 3292-6163 Fax(03) 3292-6318
E-mail: matsubara@chemistry.or.jp

問合せ先

（社）日本化学会 企画部 百武宏之
〒 101-8307 千代田区神田駿河台 1-5
Tel(03) 3292-6163 Fax(03) 3292-6318
E-mail: hyakutake@chemistry.or.jp

拡大博士セミナー —博士のためのセミナーと 就職交流会—

S4 会場 5 号館 5121 号室

主催：日本化学会将来構想委員会
共催：野依フォーラム・(財)化学技術戦略推進機構 (JCII)・(社)日本化学工業協会
後援：(社)日本経済団体連合会・文部科学省・経済産業省
日時：3月28日(金) 10:00-18:00
会場：立教大学池袋キャンパス 5号館 5121号室

科学技術で生き残りを図る日本において、科学技術を推進する原動力、イノベーションの担い手として、学においても産においても高度な知識と研究開発力を持った博士人材が非常に期待されています。一方で、博士課程在学生在に企業・社会を実際に学ぶ機会が少なく、産に目を向ける場面が少ないのが実情です。昨年度、日本化学会は、野依フォーラムおよび経団連の提言を受けて、関連団体の協力のもと、化学系学生を対象に「博士セミナー」を試行的に東京、大阪でそれぞれ開催いたしました。

今回、全国から学生が多く集まる春季年会において、受講対象者を博士課程学生のみならず、修士課程学生、ポスドクの方まで幅広く広げて、産業界をもっと知ってもらうセミナーと就職交流会をミックスした拡大博士セミナーを開催いたします。

プログラム

- 10:00-10:30 拡大博士セミナーの趣旨と博士セミナーの実施報告 (博士セミナー実行委員長・旭化成顧問) 府川伊三郎
10:35-11:15 基調講演：博士・ポスドクへの期待と課題 (東大副学長) 平尾公彦
11:20-12:00 基調講演：多様な世界に挑戦を(日本化学会会長・三井化学会長) 中西宏幸
12:00-13:00 ランチョンセミナー (軽食付き)：博士セミナー受講者アンケート集計結果報告 (博士セミナー実行委員・ブリヂストン) 加藤信子
13:00-14:30 研究開発事例：製造業で独創性を発揮する (島津製作所フェロー) 田中耕一
14:40-16:30 博士卒業企業若手研究者による研究開発事例紹介とパネル討論：パネリスト：森重 敬 (三井化学)、寺田 秀 (三菱化学)、中村史夫 (東レ) 司会：(博士セミナー実行委員・住化技術情報センター) 山近 洋
会場移動
16:40-18:00 就職相談会 (主として博士、ポスドクのための就職相談会とします)

受講対象者：博士課程進学希望の修士課程在籍者、博士課程在籍者、及びポスドク研究者、(博士セミナーに関心のある産学官の皆様)

参加費：無料

定員：100名程度、定員を超える場合は調整させていただきます。就職交流会は自由に参加下さい。

申込方法：日本化学会ウェブサイト (<http://www.csj.jp>)、または 1. 氏名、2. 所属・学年または役職、3. 連絡先 (〒、住所、電話番号、FAX 番号、E-mail)、4. 本セミナー申し込みの動機・目的、5. 研究開発事例講演に期待するものを明記し、事前に下記宛にお申込み下さい。申込締切：2008年2月末日。

申込先：

(社)日本化学会 企画部 松原葉子
〒101-8307 千代田区神田駿河台 1-5
Tel(03)3292-6163 Fax(03)3292-6318
E-mail: matsubara@chemistry.or.jp

問合せ先：

(社)日本化学会 企画部 百武宏之
〒101-8307 千代田区神田駿河台 1-5
Tel(03)3292-6163 Fax(03)3292-6318
E-mail: hyakutake@chemistry.or.jp

天然物および生物有機化学に関する ナカニシシンポジウム 2008 (The Chemical Record Lecture)

S3 会場 11 号館 AB01 号室

主催：ナカニシシンポジウム組織委員会
日時：3月28日(金) 13:00-17:20
会場：立教大学池袋キャンパス 11号館 AB01号室

ナカニシシンポジウムは、日本化学会と米国化学会との取決めにより偶数年度は日本で、奇数年度は米国にて選考されるナカニシ・プライズの受賞講演を含み、該当国で交互に開催されている。

本プライズは生物活性天然物の単離、構造解析、生物機能、生成および全合成分野での顕著な研究業績を対象に選考され、本年度は日本化学会にて設置された選考委員会によって、Michel Rohmer 教授 (フランス、ルイ・パスツール大学) に授与されることに決定した。

よって本企画は選考理由である「バクテリア細胞膜脂質成分の生合成研究を契機としたメバロン酸を経由しないイソプレノイド生合成経路 (非メバロン酸経路) の発見、およびその生物分布の解明」に基づき、受賞者による講演に加えてこれに関連する最新の研究成果を周辺分野の研究者に紹介していただく。

プログラム

- 13:00-13:30 ナカニシ・プライズ贈呈式
13:30-14:10 Biosynthetic Studies on Polyether Antibiotics and Peptide Antitumor Agents (北大院理) 及川英秋
14:10-14:50 Sterols as a Key Player in Assembling Functional Membrane Complexes (阪大院理) 村田道雄
15:00-15:30 Microbial Genome: A Treasure Box for New Enzymes (東大生物生産工学研究センター) 葛山智久
15:30-16:10 Approach into the Mystery of Steroid Biosynthesis by Developing Mercuric Triflate (徳島文理大薬) 西沢丈夫
16:20-17:20 A Breakthrough in Isoprenoid Biochemistry: the Methylerythritol Phosphate Pathway for the Formation of Isoprene Units in Bacteria and Plant Plastids (ルイ・パスツール大) Michel Rohmer

参加費：無料。講演要旨 (会場にて頒布予定) 無料

申込方法：事前申込不要。当日会場にて受付

問合せ先：

ナカニシシンポジウム組織委員長 上村大輔
〒464-8602 名古屋市千種区不老町
名古屋大学大学院理学研究科
Tel/Fax (052) 789-5248
E-mail: uemura@chem3.chem.nagoya-u.ac.jp

(社)日本化学会 企画部 井樋田
〒101-8307 千代田区神田駿河台 1-5
Tel(03)3292-6163 Fax(03)3292-6318
E-mail: ihida@chemistry.or.jp

公開討論特別シンポジウム(第4回) 『先進分子技術:自然・ 生活環境の向上をめざして』

SB 会場 5 号館 5322 号室

主催：(社)日本化学会
協賛：(独)科学技術振興機構
日時：3月28日(金) 13:00-17:00
会場：立教大学池袋キャンパス 5号館 5322号室

物質の創造を担う『化学』は現代社会の発展を支えるとともに、その推進役として大きく貢献しています。しかし、21世紀を迎えた今、人類が直面する社会的課題に解決の糸口を与える『化学』に寄せられる期待はますます大きくなっています。

本会では化学が先導すべき未来戦略として『化学に発する物質科学の研究戦略』『2030年の社会と物質科学』『元素戦略と我が国の未来』と題し公開討論特別シンポジウムを開催し好評を博しました。この度、標記主題で第4回シンポジウムを開催することに

いたしました。それぞれの分野の斯界の方々にご講演をいただきますので、皆様のご参加をお待ちしております。将来の社会を念頭に「分子科学」に対し、新しく「分子技術」というコンセプトを持つといろいろなことが見えるようになります。その主要部を本シンポジウムでは考察します。

プログラム

○オーガナイザー：村井眞二・玉尾皓平・中村栄一

第1部：科学技術の将来への政策

講演1 (13:00-13:30)『科学技術政策の動向：第4期科学技術基本計画をめざして』①文部科学省研究振興局基礎基盤研究課ナノテクノロジー材料開発推進室長 高橋雅之、②経済産業省製造産業局化学課長 山根 啓

第2部：先進分子技術

講演2 (13:30-14:00)『分子科学から分子技術へ—分野融合が鍵』(東京大学大学院工学系研究科教授) 相田卓三

講演3 (14:00-14:30)『有機エレクトロニクスとコンシューマーエレクトロニクス』(ソニー(株)マテリアル研究所R&Dダイレクター・融合領域研究部統括部長) 笠原二郎

講演4 (14:30-15:00)『有機エネルギーデバイスへの期待』(日本電気(株)ナノエレクトロニクス研究所主任) 中原謙太郎

講演5 (15:10-15:40)『生命科学の時代を担うソフト&ウエットマター』(独立行政法人 理化学研究所特別顧問) 長田義仁

講演6 (15:40-16:10)『分子技術はシンプルに—一つの分子の動きに学ぶ化学』(東京大学大学院理学系研究科教授) 中村栄一

第3部：先進分子技術と将来の社会

パネル討論 (16:10-17:00)『分子技術で拓く未来社会』パネリスト：講師全員、司会：村井眞二・玉尾皓平

【講演要旨集誌上特別寄稿】

『第4期科学技術基本計画に向けてなすべきこと』(独立行政法人 科学技術振興機構社会技術研究開発センター長) 有本建男

参加費：無料。資料代1,000円(予備)

申込方法：当日会場にて申込み可能ですが、1. 氏名、2. 所属・役職、3. 連絡先(〒、住所、電話番号、FAX番号、E-mail)を明記し、事前にE-mailで下記宛にお申し込み下さい。

申込先：

(社)日本化学会 企画部 太田
〒101-8307 千代田区神田駿河台1-5
Tel(03)3292-6163 Fax(03)3292-6318
E-mail: oota@chemistry.or.jp

第8回男女共同参画シンポジウム 「化学企業で働く現状と ワーク・ライフ・バランス」

S9会場 5号館 5224号室

主催：日本化学会男女共同参画推進委員会

日時：3月29日(土) 13:00-16:10

会場：立教大学池袋キャンパス 5号館 5224号室

化学は科学技術立国を目指す、数多くの基盤産業を支えている。化学関連産業の持続的発展の鍵の一つは、働く男女一人一人が働き続けられることである。しかしながら、今の日本には、育児、介護、転勤など働き続けることを困難にする数多くの課題がある。本シンポジウムでは、化学企業で働く男女研究者・技術者がやりがいのある仕事と充実した私生活の調和(ワーク・ライフ・バランス)をどう図っているかについて語っていただく。さらに、科学技術分野での男女共同参画についてお話いただく。その後、話題提供者と将来の進路を模索中の学生・院生や自分の未来を開拓中の若手男女研究者・技術者達との意見交換を行う。

プログラム

13:00- ご挨拶 日本化学会会長 中西宏幸

司会 (男女共同参画推進委員会委員) 森 義仁・小野昇子

13:10-13:20 趣旨説明 (男女共同参画推進委員会委員) 森 義仁

13:20-13:50 化学企業で働く現状 (三井化学人事・労制部) 田中千穂

13:50-14:15 働く女性の環境はどのように変わってきたか? (国立女性教育会館) 高橋由紀

14:15-14:40 企業開発研究職にみる仕事・家庭・生きがい (花王パーソナルヘルスケア研究所) 鈴木敏幸

14:40-15:10 科学技術分野における男女共同参画について (文部科学省研究開発局地球・環境科学技術推進室) 岡村直子

15:10-15:20 休憩

15:20-16:10 質問・討論 (男女共同参画推進委員会委員) 小野昇子、森 義仁

参加費：無料。

申込方法：事前申込不要。当日会場にて受付。

その他：ミキサー 16:30-

会場：第一食堂(立教大学池袋キャンパス内)

参加費：無料

申込方法：事前申込不要。当日講演会会場にて受付

問合せ先：(社)日本化学会 総務部 佐藤

〒101-8307 千代田区神田駿河台1-5

Tel(03)3292-6161 Fax(03)3292-6318

E-mail: midori2@chemistry.or.jp

環境・安全シンポジウム2008 —環境安全に配慮した 大学の実験室インフラのあり方—

SA会場 5号館 5321号室

主催：日本化学会環境・安全推進委員会

日時：3月29日(土) 13:30-16:55

会場：立教大学池袋キャンパス 5号館 5321号室

実験研究現場における環境安全を考えるにあたって、実験を行う施設が環境と安全に十分配慮されたインフラとして整備されているかどうか前提条件となる。ところが実際の大学実験設備を見ると、安全かつ快適に実験を行える作業環境が十分に整備されているとは言えない。このような理想と現実の乖離を解消し、大学の研究者が安心して研究や教育に専念できる実験室インフラを整備するためには、頻繁な人の入れ替わりや研究テーマの変更といった大学研究における特殊性を考慮し、限られた予算やスペースを制約条件とした現実的な実験室計画指針の確立が急務である。このシンポジウムでは、環境安全に配慮した大学の実験室計画のあり方について、実験室のユーザー・設計者・管理者の各立場からご講演いただく。

プログラム

13:30-13:45 開会挨拶(環境・安全推進委員会委員長) 山辺正顕

13:45-14:15 大学の法人化と実験室インフラ整備の現状—東北大学の事例—(東北大学大学院環境科学研究科) 吉岡敏明

14:15-14:45 大学実験室における空気環境の考え方(山武ビルシステムカンパニー) 斎藤英弥

14:45-15:15 大学研究の特殊性を考慮した実験室計画(竹中工務店技術研究所) 川尻 聡

15:15-15:45 大学の環境安全確保に向けた運営の工夫(千葉大学施設環境部) 加納博義

15:55-16:55 パネルディスカッション(総合司会：東工大院理工) 市村禎二郎

参加費：無料。講演資料代：1,000円(当日徴収)

申込方法：「3/29 環境・安全シンポジウム出席」と標記し、氏名・所属・連絡先住所・電話番号・FAX番号・E-mailを明記のうえ、E-mail(matsubara@chemistry.or.jp)にてお申込み下さい。なお、当日は13時から受付を行います。

定員：100名(満員の場合はご入場をお断りすることもあります)

問合せ先：

(社)日本化学会 環境・安全推進委員会

〒101-8307 千代田区神田駿河台1-5

Tel(03)3292-6163 Fax(03)3292-6318

E-mail: matsubara@chemistry.or.jp

ご案内：環境・安全シンポジウム併催行事として、「第2回環境・安全問題見学会」を3月28日(金)14時~17時に実施いたします(見学先：三菱化学(株)イノベーションセンター横浜センター、横浜市青葉区鴨志田町1000、[交通]東急田園都市線青葉台駅からタクシー5分またはバス10分(東急バス[青51/61]「日体大行」にて「田奈高校前」下車すぐ)。詳細は下記URLをご覧ください。

URL: <http://www.csj.jp/es/sy080328exp.pdf>

シンポジウム 『科学者・技術者の倫理と 社会的責任を考える(4)』

S8 会場 5 号館 5223 号室

主催：日本化学会倫理委員会
共催（予定）：応用物理学会・化学工学学会・情報処理学会・大気環境学会・電気学会・電子情報通信学会・土木学会・日本化学会・日本機械学会・日本技術士会・日本建築学会・日本原子力学会・日本農芸化学会・日本薬学会・日本分子生物学会
後援（予定）：日本学術会議
日時：3月29日（土） 13:00-17:00
会場：立教大学池袋キャンパス 5号館 5223号室

科学者・技術者コミュニティである学協会は、人類の安全・健康、福祉の増進や環境保全のために重要な役割を果たすことが期待され、「行動規範」「科学者・技術者倫理」の確立が社会から受容される必要条件になっている。

本シンポジウムでは、本会倫理委員会の活動状況について紹介するとともに、研究者倫理、各学協会の倫理問題への取組み、技術者の倫理教育等についてご講演をいただき、広く討議しながら学会としての今後のあり方を考えてみたい。

プログラム

総合司会：楠本正一

挨拶と報告（13:00-13:15）

『日本化学会倫理委員会の活動』（日本化学会倫理委員会委員長/東京理科大学教授）井上祥平

講演 1（13:15-14:05）

『科学者の倫理：生命科学を中心に』（仮題）（座長：楠本正一）（東京大学副学長）浅島 誠

講演 2（14:05-14:55）

『「不安の時代」における技術倫理の意味を考える：原子力学会倫理委員会活動を通じて』（座長：後藤達乎）（東北大学名誉教授・同未来科学技術共同研究センター客員教授）北村正晴

講演 3（15:05-15:55）

『電気学会における倫理問題への取組み』（仮題）（座長：伊藤 卓）（株）東芝 電力システム電力流通技師長）竹中章二

パネル討論（15:55-16:55）『科学者・技術者の倫理と社会的責任を考える』パネリスト：講師ほか。司会：富永 健

閉会挨拶（16:55-17:00）御園生 誠

参加費：無料。資料代 500 円（予定）

申込方法：1. 氏名、2. 所属・役職、3. 連絡先（〒、住所、電話番号、FAX 番号、E-mail）を明記し、E-mail で下記宛にお申し込み下さい。申込者には参加証を送付します。

申込先：

（社）日本化学会 企画部 太田

〒101-8307 千代田区神田駿河台 1-5

Tel(03)3292-6163 Fax(03)3292-6318

E-mail: oota@chemistry.or.jp

公開シンポジウム 『化学分野アカデミックロードマップ』

S3 会場 11 号館 AB01 号室

日時：3月29日（土） 13:00-17:00（予定）

会場：立教大学池袋キャンパス 11号館 AB01号室

本会は昨年度に引き続き経済産業省より「化学分野のアカデミックロードマップ」作成事業を受託いたしました。今年度は、国として重要な政策課題を提示していただき、その課題について化学分野として、具体的な提案をまとめることになり、本会学術研究活性化委員会内に「化学分野アカデミックロードマップ」作成検討委員会を設置し、課題に対する7分野の分科会で報告書を作りまとめています。

標記シンポジウムでは、経済産業省が毎年作成している技術ロードマップの内容について説明いただくほか、上記7分科会がまとめた報告内容を紹介し広く議論する予定です。

プログラム

プログラムの詳細は日本化学会ウェブサイト (<http://www.csj.jp>) をご覧下さい。

化学クラブ研究発表会

S5 会場 5 号館 5122 教室
S6 会場 5 号館 5123 教室

主催：日本化学会関東支部

後援：文部科学省

協賛：味の素（株）

日時：3月29日（土） 9:40-17:00（予定）

参加費：無料

申込方法：直接会場へお越し下さい。

プログラム・実施時間等詳細は日本化学会ウェブサイト (<http://kanto.chemistry.or.jp/>) をご覧下さい。

第15回化学教育フォーラム 「初等中等教育に対する 大学の取り組みと大学教育」

S5 会場 5 号館 5122 号室

主催：日本化学会化学教育協議会・立教大学

日時：3月30日（日） 09:00-12:30

会場：立教大学池袋キャンパス 5号館 5122号室

最近、小・中学校の児童・生徒の理科離れ対策のために、科学に対する知的好奇心を満たし、科学の楽しさを実感するための多様な機会を提供する取り組みが盛んに行われている。一方、大学においては、従来の学術研究型教育に加えて、リアリティのある社会活動に触れ、自らの学習に主体的に取り組ませる社会参画型教育の必要性が指摘されている。そのひとつの実践として、大学生が初等中等教育に参画する試みも行われ始めた。

本フォーラムでは、大学におけるこれらの取り組みの実践報告と情報交換を行う予定である。現在の問題点と今後の展望について意見交換を行いながら、初等中等教育に対する大学の取り組みのあるべき姿について議論する機会をもつ。

プログラム

1. 開会の挨拶（化学教育協議会議長/東京理科大学）井上祥平

<9:05-10:30>

2. 立教大学 CBLs および立教大学院理科学研究会（立教大・立教新座中高）北本俊二・渡部智博

3. お茶の水女子大学の取り組み：いかにして科学コミュニケーション能力を養成するか？（お茶の水女子大学）仲矢史雄

4. 理科支援員配置事業の実施と今後の方向性—千葉県における展開—（千葉県総合教育センター）高安礼士

<10:40-11:30>

5. 学生サークル東京大学教養学部化学部が実施する「実験教室」（東京大学（学生））永田利明

6. 博物館と大学とのパートナーシップ制度（国立科学博物館）小川義和

<11:40-12:30>

7. パネルディスカッション（司会 化学協議会役員/東京大学）下井 守

8. 閉会の挨拶（立教大学 理学部長）佐藤文廣

参加費：無料

申込方法：直接会場へお越し下さい。

問合せ先：

（社）日本化学会 企画部 大倉寛之

〒101-8307 千代田区神田駿河台 1-5

Tel(03)3292-6164

E-mail: kyoiku-kyogikai@chemistry.or.jp

市民公開講座
『日本の化学工業：100年の足跡』
S7会場 5号館 5222号室

企画：日本化学会化学教育協議会化学アーカイブズ小委員会
主催：日本化学会・化学史学会ほか
共催（予定）：日本化学工業協会ほか
協賛（予定）：立教大学・豊島区・豊島区教育委員会
日時：3月30日 13:00-17:00
会場：立教大学池袋キャンパス 5号館 5222号室

我が国における化学に関する貴重な資料・史料の調査と収集、また、そのデータベース化を目指して、平成17年3月、当会に「化学アーカイブズ小委員会」を立ち上げ活動しています。この事業への会員の方々のさらなる協力と理解を得るため、これまでに寄贈された資料・史料の一部と関連企業等からお借りした貴重な資料・史料を展示いたします。同時に我が国の化学史・化学工業史に関する講演会を表題の下、関連団体の共催で市民公開講座として開催いたします。ぜひ奮ってご参加をお願い申し上げます。

プログラム

総合司会 伊藤 卓（化学アーカイブズ小委員会委員）
開会挨拶（日本化学会平成20年度会長/三井化学（株）会長）中

西宏幸

日本化学会化学アーカイブズ小委員会の活動:いま これから』
(13:05-13:20) (日本化学会化学教育協議会化学アーカイブズ小委員会委員長 京大名誉・岡山理大教授) 植村 榮
講演

1. 『池田菊苗先生による「うま味」発見百周年に想うこと』(13:20-14:10) (司会：岡崎廉治) (味の素（株）ライフサイエンス研究所理事) 鈴木榮一郎
2. 『日産化学：日本初の化学肥料製造会社一起業の原風景とその後120年』(14:10-15:00) (司会：御園生 誠) (日産化学工業（株）研究推進部長・主幹) 新井和孝
3. 『野口 遵の生涯：日窒コンツェルンを築いた業績と遺したもの』(15:15-16:05) (司会：山本明夫) (財団法人 野口研究所理事) 河野満男
4. 『高分子化学から合成繊維へ』(16:05-16:55) (司会：内田正夫) (日本大学生物資源科学部教授) 古川 安
閉会挨拶(16:55-17:00) (化学史学会会長/産業技術総合研究所産学官コーディネータ) 亀山哲也

参加費：無料。資料代500円（予価）

申込方法：直接会場にお越し下さい。

化学史料展示会

期日：3月27日～29日 10:00-17:00

会場：立教池袋中学校・高等学校（日本化学会第88春季年会展示会場）

上記市民公開講座の各講演内容に関連する貴重な史料を展示いたします。